カチオン形弱溶剤アクリル樹脂系非水分散形塗料

# ニッペ ケンエースG-Ⅱ®

やに・しみ止め効果とすぐれた付着力、作業性を考慮した待ち望まれた塗料。

| JIS K 5670<br>アクリル樹脂系非水分散形塗料 | |
|---|---|
| ホルムアルデヒド<br>放　散　等　級 | F☆☆☆☆ |

# 「塗装」快適論。

さまざまな制約条件の中で行われる建築物の塗装、とりわけ塗り替え時には、施工期間をはじめ、旧塗膜の種類や状態、養生など多くの問題を抱えています。
日本ペイントがお届けするケンエースG-IIは、隠ぺい性、付着性にすぐれるとともに、各種素材への浸透力、防かび力、やに・しみ止め効果など、塗装後の快適感を保持します。
施工に携わる人の快適性、塗装後に利用する人の快適性を考えたケンエースG-II。
日本ペイントの提案です。

# 今までにない数々の機能。塗装後、いつまでも快適さを維持します。

- ●素材への浸透力が抜群です。
- ●防かび※、やに・しみ止め効果が強力です。
- ●塗装後、結露してもしみが残りません。

※防かび効果は、かびの繁殖を抑制するものです。既に繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。

**こんなところに最適です。**

- ■人が多く集まりたばこのやに汚染がひどいところ。
- ■湿気が多くかびが発生しやすいところなど。
- ■エマルション塗料ではよく結露じみが残ってしまうところや下地にしみが発生しているところなど。

## 高いやに・しみ止め効果。塗った後も安心です。

### ▶やに、しみ止め効果

ケンエースG-Ⅱは、ターペン可溶カチオン形アクリル樹脂を使用していますので、専用シーラーを使わなくても水性のやに、しみ、あくが止まります。

▲塗装前

▲塗装後１ヶ月

### ▶標準塗装仕様書

| 適用下地と旧塗膜 | |
|---|---|
| 適用下地 | モルタル、コンクリート、ブロック、木部、鉄部、硬質塩ビ、かき落しモルタル　㊟繊維壁、耐火被覆用ケイカル板、ロックウールなどの非常にぜい弱な素材には塗装できません。 |
| 旧塗膜 | AEP、OP、VP、AE、水性つや有りエマルション |

**標準塗装仕様(平滑面)**

| 工程 | 塗料名 | 塗り回数 | 使用量 (kg/m²/回) | 塗り重ね乾燥時間 (23℃) | 希釈剤 | 希釈率 (%) | 塗装方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 素地調整 | 新設面●エフロレッセンス、レイタンスなどの粉化物、よごれ、油分などを除去してください。<br>塗替面●浮き膜を除去し、その周辺もケレンしてください。<br>●粉化物、よごれ、ごみ、かびなどを除去し、清掃してください。<br>外部新設仕様および旧塗膜の劣化が著しい場合や著しい吸込み面へは、下塗りにニッペー液浸透シーラーをご使用ください。 | | | | | | |
| 上塗り | ケンエースG-Ⅱ | 2 | 0.13〜0.15 注) | 2時間以上 | 塗料用シンナーA | 0〜7 | はけ・ウールローラー |
| | | | 0.14〜0.16 注) | | | 5〜10 | エアレススプレー |

※旧塗膜は、健全な状態であることを想定しています。
※上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります)
注)「ケンエースG-Ⅱ」の塗付け量は、0.10kg／m²／回です。
●使用量：被塗装面単位面積あたりの塗装材料(希釈する前)の使用質量　●塗付け量：被塗装面単位面積あたりの塗装材料(希釈する前)の付着質量
※かび発生面に塗装する場合は必ず下記の処理を行って塗装してください。
①5%次亜塩素酸ソーダ水で殺菌処理してください。　②塗り付け後は必ず水洗いをし、十分に乾燥させてください。
※鉄部などの金属面には、下塗りとして、さび止め塗料をご使用ください。
※内部塗り替えにおいて、旧塗膜がOP、FEなどの油性系の場合、研磨ずりを行ってください。
※記載された塗料以外の適用については、最寄りの販売会社にご相談ください。

### ▶種類と容量

白　:16kg
原　色：4kg/ブラック、インディアンレッド、エコロエロー、オーカー、シャニンブルー、エクセレントレッド　合計6色
指定色:16kg/淡彩色から濃彩色まで調色できます。
名　称:合成樹脂エナメル塗料
危険物表示:第2石油類
危険等級Ⅲ(火気厳禁)
有機溶剤:第3種等

# すぐれた付着力、強靭な塗膜。よごれても洗浄できる塗料です。

- ●カチオン形特殊アクリル樹脂を使用していますので、耐久性にすぐれています。
  また付着力が高く、セロテープでもはがれません。
- ●耐水性が求められる場所。
- ●水性塗料と違い、水やアルカリによる軟化・膨潤作用がきわめて少なく、塗膜が安定しています。

**こんなところに最適です。**

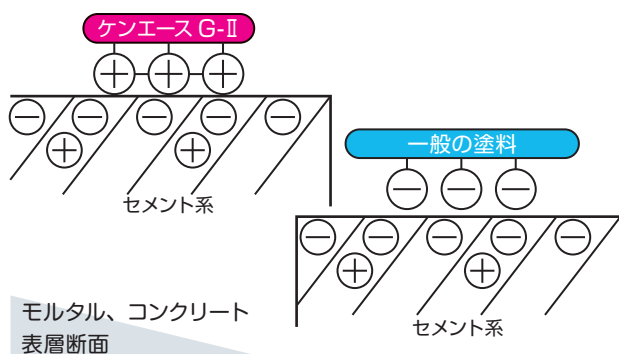
- ■エマルション塗料以上に付着性能がほしい場所。
- ■耐水性が求められる場所。
- ■工場、病院、学校など、人が多く集まり、よごれやすいところで、よごれを洗い落としたい場所。

## ケンエースG-Ⅱは、カチオンタイプ。電気的に素材と強く結合します。

### ▶カチオン形

ケンエースG-Ⅱは、ターペン(塗料用シンナーA)希釈するカオチン形アクリル樹脂つや消し塗料です。ケンエースG-Ⅱのビヒクルは、カチオンタイプ(+電気)のアクリル樹脂を使用、電気的に結合していますので、付着力にすぐれています。

## 小さい粒子が素材へ浸透。それが、すぐれた付着性の秘密です。

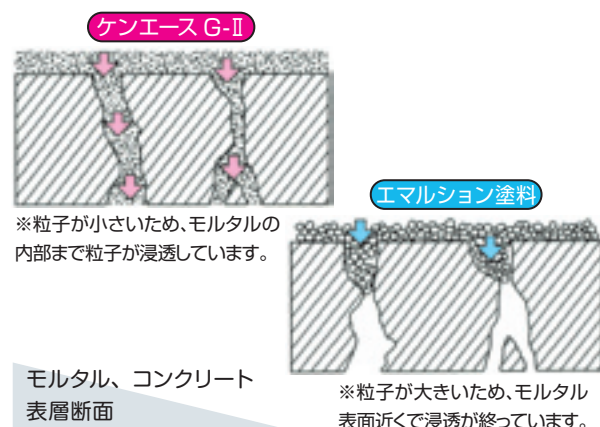
### ▶浸透力

ケンエースG-Ⅱは粒子が小さいため素地への浸透力がよく、付着力にすぐれています。

ケンエース G-Ⅱ

※粒子が小さいため、モルタルの内部まで粒子が浸透しています。

エマルション塗料

※粒子が大きいため、モルタル表面近くで浸透が終っています。

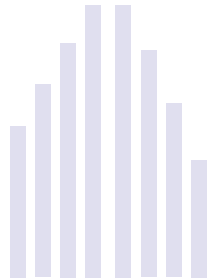
モルタル、コンクリート
表層断面

**調色するにあたって**

1.色合せには、専用の原色をお使いください。(合成樹脂調合ペイントで調色した場合、色むら、変色をおこすことがありますので使用しないでください。)
2.専用原色で濃彩色も調色できます。

**塗装にあたって**

1.必ず塗料用シンナーAで薄めてください。
2.新しい壁はアルカリが強く、水分を多量に含んでいます。次の場合は養生期間を十分に取ってください。
　●アルカリ分pH(ペーハー)値10以上の場合　　●含水分10%以上の場合
3.新設木部の場合には下塗りに「HiCR下塗白(無鉛)」をご使用ください。
4.鉄部には直接塗装できませんのであらかじめさび止めを塗っておくことが必要です。
5.外壁などでのエマルションパテの使用は避けてください。はく離などの原因となります。
　セメントフィラー、合成樹脂入りセメントペーストなどをご使用ください。
6.皮膚に付着した場合、速やかにシンナーでふきとり水洗してください。
7.室内での塗装は、必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても溶剤臭気が室内に入らないように、注意し居室者への配慮をお願い致します。

本商品には当社工場にて製造もしくは調色したJIS表示品と店頭にて調色していただく為のJIS非表示品があります。
JIS表示が必要な場合はご注文時にその旨をご指示ください。

# エマルション塗料に類する高作業性。だから、塗装作業が快適です。

- ●シーラーが不要です。 ※新設時および素材の種類や下地によっては、シーラーが必要な場合があります。
- ●ケンエースG-Ⅱは、旧塗膜をおかさないのでOPやEPなどの上に直接塗れます。
- ●幅広い温度条件下で施工がOK、0℃でも造膜が可能です。
- ●油性塗料のように油臭さが残りません。
- ●速く乾燥するので、1日2回塗りができます。
- ●防火材料認定(認定番号NM-8585・QM-9816・RM-9364)

こんなところに最適です。

- ■旧塗膜がわからない場合。
- ■いろいろな素材が混在している場所。
- ■商店、事務所など短期施工が求められるところ。
- ■低温で作業しなければならない場所。

## ▶他の塗料との比較

◎大変良好○良好
△やや不良×不良

| | | ケンエースG-Ⅱ | 非水エマルション(NAD) | アクリルエマルション | 塩化ビニル樹脂塗料(つや消し) |
|---|---|---|---|---|---|
| 樹脂粒子の大きさ | | 微小 | 大(0.5~2μ) | 大(0.1~1μ) | 微小 |
| 塗膜性能 | 耐久性 | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| | 付着力 | ◎ | ○〜△ | △ | ◎ |
| | 防かび性 | ◎ | △ | × | ○ |
| | やに、しみ止め | ◎ | ◎ | × | ○ |
| | 耐汚染、汚染除去性 | ○ | △ | × | ○ |
| | 結露むら | ◎ | ◎ | × | ◎ |
| | 耐水、耐温水性 | ◎ | △ | △ | ◎ |
| 作業性 | 旧塗膜への適応性 | ◎ | ◎ | △ | △ |
| | ローラー、はけサバキ | ○ | ○ | ◎ | △ |
| | 低温造膜性 | ◎ | △ | × | ◎ |
| | 臭いの強さ | ○ | ○ | ◎ | × |
| | 乾燥の速さ | ○ | ○ | △ | ◎ |

注】建物の構造や地域、環境、方角、塗膜厚などにより、塗膜性能(耐久性、防かび性など)が十分に発揮されない場合があります。
※臭いの感じ方には個人差があります。
※室内で換気が十分にできない場合は、臭気が残る場合があります。

## ▶品質性能 白及び淡彩

| 試験項目 | 規格 | 試験結果 |
|---|---|---|
| 容器の中での状態 | かき混ぜたとき、堅いかたまりがなくて一様になるものとする。 | 合格 |
| 塗装作業性 | はけ塗りおよびローラーブラシ塗りに支障があってはならない。 | 合格 |
| 塗膜の外観 | 塗膜の外観が正常であるものとする。 | 合格 |
| 乾燥時間h(半硬化乾燥) | 5時間以内とする。 | 1時間 |
| 隠ぺい率 % | 90以上 | 95 |
| 耐水性 | 水に浸したとき異常がないものとする。 | 合格 |
| 耐アルカリ性 | アルカリに浸したとき異常がないものとする。 | 合格 |
| 促進耐候性 | 白亜化の等級は1以下で、膨れ、はがれ及び割れがなく、色の変化の程度が見本品に比べて大きくないものとする。 | 合格 |

# ニッペ ケンエース® G-Ⅱ

## ●施工上の注意事項（詳細な内容については、各商品の製品使用説明書などにてご確認ください）

- 蓄熱されやすい建材（軽量モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など）を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最寄の営業所などにご相談ください。
- ケンエースG－Ⅱの下塗り材として1液ファインシーラーまたはACホワイトシーラーを使用すると、割れが生じるおそれがあるため、使用しないでください。
- ケンエースG－Ⅱグロスの上に直接ケンエースG－Ⅱ（つや消し）を塗装すると、割れたり、縮んだりすることがありますので避けてください。
- 鉄部の塗装の場合、2液形のさび止め塗料または上塗りと同系色の「ニッペ1液ハイポンファインデクロ」をご使用ください。
- つや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんし、均一な状態でご使用ください。
- 防かび・効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
- 塗装後乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気分を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。
- 色相によっては降雨、結露によってぬれ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。
- つや有り仕上げを塗り替える場合、種類によっては適性がない場合がありますので、試し塗りをしてから本施工してください。
- 溶剤系塗料のため、室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者へのご配慮をお願い致します。
- 所定のシンナー以外を使用したり、薄めすぎるとつや引けやダレ、かぶり不良などをきたす原因になりますので、必ず所定のシンナーおよび希釈率をまもってください。
- 異なる色相を塗り重ねる場合（例：1回目の上塗りを塗装してから、別な色相でラインや帯などを塗装する場合など）2回目の上塗りが1回目の上塗りを侵してラインや帯などが変色（ブリードに）よりする場合がありますのでご注意ください。
- 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
- 内部塗替えにおいて旧塗膜がOP、FEなどの油性系の場合、研磨ずりを行ってください。下地処理が不十分な場合は、塗膜はく離の原因となります。
- 既存塗膜のはく離個所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- 改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を侵し溶剤膨れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご検討ください。
- 外部の風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ一液浸透シーラー、ファイン浸透シーラーをご使用ください。
- やにが著しく付着している場合は、ウエスなどでやにを水拭きして除去し被塗装面を十分に乾燥させてから塗装してください。希釈を少なくし、1回目の塗装を十分乾燥（目安23℃、6時間）させてから2回目の塗装をすることでやに止め性が向上します。シミ、あく面は止まりにくい場合がありますので、ウエスなどで水拭きを行い、被塗装面を十分乾燥させてから塗装してください。
- 塩化ビニールクロスのはがれ、めくれ、浮きなどは接着剤で貼り付け、ローラーで圧着したり、類似クロスで面合わせをするなどあらかじめ補修してください。またクロスの接着力が低下している場合、塗装することでクロスが浮き上がってくることがありますので、クロスの合わせ部などはあらかじめ接着剤などで抑えておくことが安心です。
- 素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下（ケット科学社製CH－2型で測定した場合）、または5%以下（ケット科学社製Hi500シリーズ:コンクリートレンジで測定した場合）の条件で塗装してください。
- 表面のごみ、ほこり、エフロレッセンス、レイタンスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
- ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材（ニッペセメントフィラー、ニッペフィラー200）などで処理してください。（合成樹脂エマルションパテの使用は避けてください。）
- 新設の押出成形セメント板、GRC板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ一液浸透シーラー、ニッペファイン浸透シーラーをお使いください。
- 塗装直後から頻繁に人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、皮脂の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。
- カウンター、陳列棚、ベンチ、床面などものが常時置かれるような場所には跡がつくおそれがありますので塗装しないでください。
- 塗装場所の気温が5℃以下、湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- 塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
- 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- 笠木、天端など長時間水が滞留する個所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- 塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- 上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。
- 調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
- 濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような個所に使用する場合は、ファインシリコンフレッシュクリヤーを上塗りに塗装してください。
- 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
- ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
- 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
- 汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- 可塑剤が多く含まれる塩化ビニル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革、塩ビクロスなどへの直接塗装はお避けください。　また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようご注意ください。
- 使用前に内容物が均等になるようにかくはんし、開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。

## ●安全衛生上の注意事項（ニッペケンエースG－Ⅱ 白）

**横倒禁止**

- 本来の用途以外に使用しないでください。
- 使用前に取扱説明書を入手してください。
- すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないでください。
- 熱／火花／炎／高温のもののような着火源から遠ざけてください。ー禁煙です。
- 容器を密閉しておいてください。
- 容器を接地／アースをとってください。
- 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用してください。
- 火花を発生させない工具を使用してください。
- 静電気放電に対する予防措置を講じてください。
- 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないでください。
- 取扱い後は、手洗いおよびうがいを十分に行ってください。
- この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないでください。
- 必要な時以外は、環境への放出を避けてください。
- 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用してください。
- 気分が悪い時は、医師の診断／手当を受けてください。
- 口をすすいでください。
- 容器からこぼれた時には、布で拭き取って水を張った容器に保管してください。
- 皮膚または髪に付いた場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱いでください。皮膚を流水かシャワーで洗ってください。
- 吸入した場合：気分が悪い時は、医師に連絡してください。
- 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させてください。
- 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗ってください。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外してください。その後も洗浄を続けてください。
- ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けてください。
- 眼の刺激が続く場合は：医師の診断／手当てを受けてください。
- 火災時には、炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いてください。
- 施錠して保管してください。
- 換気の良い場所で保管してください。涼しいところにおいてください。
- 直射日光や水濡れは厳禁です。
- 塗料等の缶の積み重ねは3段までとしてください。
- 日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。輸送中も50℃以上の温度に暴露しないでください。
- 内容物／容器を国／地方自治体の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
- 塗料、塗料容器、塗装具を廃棄する時には、産業廃棄物として処理してください。
- 容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

※上記の表示は、一例です。色相などにより、容器の表示とは異なる場合があります。
□詳細な内容、表示例以外の製品については、安全データシート（SDS）をご参照ください。
□本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は事前にご相談ください。

| 危　険 | 危険有害性情報 |
| --- | --- |
|    | 引火性液体および蒸気／強い眼刺激／発がんのおそれ／生殖能力または胎児への悪影響のおそれ／臓器の障害（単回暴露）／長期にわたるまたは反復暴露による臓器の障害／水生生物に有害／長期的影響により水性生物に有害 |


日本ペイント株式会社

お客さまセンター
☎03-3740-1120
☎06-6455-9113
http://www.nipponpaint.co.jp/


●当社は2014年7月現在、ISO14001を全事業所で認証取得しています。
●このカタログは、再生紙を使用しています。

●本カタログの内容については、予告なく変更する場合がございますのであらかじめご了承ください。
●「本カタログ中の製品名・会社名は、日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。」


■詳しい情報はホームページで　日本ペイント　建物　検索　http://www.nipponpaint.co.jp/bizl/building.html


カタログNo.
NP-S068
NB140710T
2014年7月現在